

SARAH MCCLENDON A TRIBUTE

9 January 2003

Steven M. Greer MD, Director

CSETI / The Disclosure Project

www.DisclosureProject.org

サラ・マクレンドンに捧ぐ

2003 年 1 月 9 日

スティーブン・M・グリア 医師

地球外知性体研究センター／公開プロジェクト 責任者

([CSETI のウェブサイトより](http://www.DisclosureProject.org))

サラ・マクレンドンの死去と共に、報道界の偉大な光が一つ、この世界を去った。

私がサラに初めて会ったのは、ナショナル・プレスクラブにおける彼女のあるグループ会議のときだった。私はサラから、我々の調査によって CSETI（地球外知性体研究センター）と公開プロジェクト（ディスクロージャー・プロジェクト）が何を発見したのか、その概要を話すように頼まれていたのだ。すでに 80 代の後半になっていたサラは、機転の鋭さと強烈な存在感を見せつけた - それは 1940 年代以来、ホワイトハウス記者としての彼女をよく支えてきた特質だった。

すぐさま私の脳裏には、南部にいる私自身の家族の多くの面々が思い浮かんだ：一筋縄ではいかず、ワシントンの見せかけとくだらなさのすべてを見抜くことのできる、実に見事な人々だ。

ワシントンに群がる偏狭なメディアの間で UFO と地球外知性体が好ましからぬ話題であることも、この論議を呼ぶ問題の真実を追求しようとするサラを思いとどまらせることはなかった - 露ほどもだ。むしろサラは、たとえそうすることが嫌われることであっても - いや多分そうであるからこそ - 官僚主義と秘密の禁制領域を探ることに喜びを感じていたように思えた。彼女は、鋭く洞察力に富んだ多くの質問をし、その答について熟考した；もし答に満足しなかった場合には、再び私に質問を浴びせた。素晴らしいひとときだった。

私はサラとその助手の一人を交えただけの会話を持ったが、そこでこう言われたことを覚えている：サラはクリントン大統領に接近し、大統領がなぜ UFO の秘密の公開を公然と支持しようとしらないのかと訊ねた。サラによれば、大統領は車椅子の彼女の方に体をかがめ、静かにこう言った：“サラ、彼らはそのことについて私に何も話そうとしないんだ。だから、どうして私たちがそれを公開することができるだろうか？”

そのことを聞いたら私は驚くだろうとサラは考えていたが、私が、同じことはケネディ、カーター、その他の大統領にも起きたことだと言うと、彼女は心底ショックを受けた。私は彼女に、クリントン政権の初代 CIA 長官ジェームズ・ウルジーに会ったこと、そして彼が同じ経験をしていたことも話した。私の話を聞いたサラは、このような人物たちが嘘をつかれるということに本当に驚いていた；私は彼女に、それは毎日起きていることであり、少なくともこの主題についてはそうなのだと書いた。

結局、サラは公開プロジェクトのために、2001 年 5 月 9 日にナショナル・プレスクラブで開催された歴史的イベントの公式スポンサーになった。サラは会場の最前列に座った。ホールの後方では数十台のカメラが回り、20 人を超える軍、情報機関、政府の部内者たちが、世界に向けて UFO と地球外知性体の実在について知っていることを語った。サラがそのすべてを楽しんでいたことは、傍目にも明らかだった！

報道界、そして世界は、一人の偉大な人物を失った。その不屈の精神と高潔さに導かれ、50 年以上にわたり真実を求める活動をした人だった。

報道界からサラ・マクレンドンのような地位と誠意を持つ人物が立ち上がり、人類から隠され続けている最大の秘密の真実を世界に向けて誠実に報道することを、私たちはただ願ひ、祈るのみである。

ありがとう、サラ - あなたは今、私たちの心と祈りの中にいる。

スティーブン・M・グリア 医師
公開プロジェクト 責任者
バージニア州アルバマール郡
2003 年 1 月 9 日

(訳： 廣瀬 保雄)

訳者註記) 関連資料が、下記にある：

[UFO の真実 \(ナショナル・プレスクラブでの記者会見\)](#)
公開プロジェクトの摘要書 (異常な沈黙)